

# Exceed Your Vision

お客様の期待や想い(Vision)を超える(Exceed)こと。お客様に驚きや感動をもたらすこと。  
私たちは、彩りある豊かな生活を創造する商品・サービスを提供しつづけます。

## 経営理念

お客様を大切に、地球を友に、  
個性を尊重し、総合力を発揮して  
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する  
開かれた会社でありたい。  
そして社員が自信を持ち、  
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

(エプソンは経営理念を世界の14の言語に翻訳し、  
グループ全体で共有しています。)



## 目次

株主の皆様へ	1
特集：インクジェットプリンタが 芸術分野でも新たな可能性を拓く	4
事業別セグメントの概況	8
経営トピックス	12
環境活動	14
財務ハイライト	16
連結決算の概要	17
単体決算の概要	19
グローバル事業展開	20
会社情報／株式情報	21

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

また、平素はエプソンの事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2004年度事業報告書をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

### 2004年度の業績の概況

当期(2004年4月～2005年3月)における経済環境を顧みますと、海外では中国経済の拡大が継続し、米国・欧州では景気が拡大・回復してきました。また、日本経済も回復基調が続きましたが、年度の後半は個人消費や生産活動など一部に弱い動きがみられました。

エプソンの主要市場におきましては、インクジェットプリンタ市場は、プリンタ・スキャナ・コピーの機能をあわせ持つマルチファンクションプリンタ(複合機)へのシフトが進行しました。また、シングルファンクションプリンタ(単機能機)についても、欧米市場を中心として、フォトプリンタや写真専用コンパクトプリンタの需要が増加しました。レーザープリンタ市場はカラー機を中心



代表取締役会長  
草間 三郎

代表取締役社長  
花岡 清二

に拡大しましたが、価格低下も進みました。

プロジェクター市場は、従来の会議用に加えて、教育分野向け、日本・欧州においてホームシアター向けの需要が増加しました。一方で、年度前半に下げ止まりつつあった価格は、年度後半に再び低下しました。また、フラットパネル方式の大画面TVと比べて価格競争力のあるマイクロデバイス方式のプロジェクションTV市場が米国を中心に急速に拡大しました。

携帯電話向け電子デバイス市場は堅調に推移いたしました。これは、西欧・北米・中国などで携帯電話端末のカラーディスプレイ搭載機やカメラ搭載機への買い替え需要があったことと、中南米・インド・ロシアなどの新興市場において旺盛な新規需要が続いたことによるものです。

精密機器市場では、ウォッチや眼鏡レンズといった個人向け商品の低迷は続きましたが、FA機器や光学デバイスはデジタル民生機器の旺盛な需要に支えられて好調に推移いたしました。

このような市場環境のもと、エプソンは利益体質を抜本的に改革し、いかなる市場環境のもとでも安定して利益を創出できる体質を構築するために総原価率低減活動を行い、特に情報関連機器事業など完成品事業部門の損益構造改革に力を入れました。また、2004年10月1日より当社と三洋電機グループの液晶ディスプレイ事業の統合による合併会社である三洋エプソンイメージングデバイス株式会社が営業を開始いたしました。

商品開発においては、インクジェットプリンタにおいて、デジタルスチルカメラやカメラ付携帯電話で撮影した画像を、パソコンを介さずに印刷できる持ち運び可能なコンパクトフォトプリンタ「カラリオ ミー」(海外では「PictureMate」)を発売し、ホームDPEを実現する商品提案を行いました。年末商戦にかけてはマルチファンクションプリンタ市場の拡大を想定して製品ラインナップを充実させました。映像機器事業においては、高温ポリシリコンTFT液晶パネルを使用した大型液晶プロジェクションTV「LIVINGSTATION」を、昨年度投入した米国市場に続き日本市場でも発売しました。電子デバイス事業においては、携帯電話端末や映像機器向けデバイスの生産能力強化のための設備投資を実施する一方、さらな

る事業体質強化を図るためコストダウン活動を継続的に実施しました。

当期の米ドルおよびユーロの平均為替レートはそれぞれ107.55円および135.19円と前期に比べ、米ドルでは5%の円高、ユーロでは2%の円安で推移いたしました。

以上の結果、当期の売上高は1兆4,797億49百万円(前期比4.7%増)、営業利益は909億67百万円(同17.5%増)、経常利益は853億40百万円(同15.8%増)、当期純利益は556億88百万円(同46.4%増)となりました。

## マネジメント体制の変更

2005年4月1日付けで、前代表取締役副社長の花岡清二が代表取締役社長に就任し、前代表取締役社長の草間三郎が代表取締役会長に就任いたしました。念願の上場より1年半が経過し、市場における知名度が高まったこと、企業体質強化の取り組みの成果が表れてきたこと、ここ数年来取り組んできた若い世代の経営トップ登用をさらに推進すべきタイミングであることなどから、社長交代に至りました。

新社長の花岡は、主力事業であるプリンタ事業において、写真高画質のフォトプリンタの開発に貢献し、これまでの急成長の原動力になるとともに、昨年発表した中期経営計画「Action07」の策定の取りまとめを行うなど、トップマネジメントの一員として経営の中枢を担ってまいりました。今後、新社長の清新なリーダーシップのも

と、“Action07”の目標である2006年度経常利益率9%以上の実現に向けて、一層の企業体質強化を目指します。

## 2005年度の経営戦略

2004年度は中期経営計画“Action07”の初年度として、経営の諸課題に取り組んでまいりましたが、事業構造改革の成果が明確に表れた事業と、市場の環境変化に影響を受け十分な成果が得られなかった事業とに分かれる結果となりました。

そこで2005年度においては、“Action07”の第2年次として、各事業で環境変化・マーケット動向の体系的な分析を行い、成長シナリオに基づいた具体的な施策を確実に実践する年と位置付けました。現在、電子デバイス事業を中心に、大幅な価格下落や競争激化により厳しい事業環境に直面していますが、次の成長に向けた商品づくり・技術開発活動・コストダウン施策を着実に前進させ、情報関連機器事業との両輪による高利益体質の確立を目指します。

## グローバルタグライン“Exceed Your Vision” 制定

エプソンは、これまでもお客様から喜ばれる付加価値の高い商品・サービスを生み出して成長してまいりました。しかし、お客様の価値観が多様化する現在において、より一層の成長を遂げるためには、これまで以上に「お客様の視点からのものづくり」を実現し、お客様の期待や想い(Vision)を超える(Exceed)事業活動を行っていく必要があると考えました。このような背景から、このたび、グローバルタグライン“Exceed Your Vision”を制定いたしました。この“Exceed Your Vision”は、全世界のセイコーエプソングループメンバーが共有する企業活動の指針であると同時に、すべてのステークホルダーへ向けたメッセージでもあります。今後、このタグラインを、エプソンロゴとあわせて長期的に使用いたします。

エプソンは、これからも技術革新を通じ、お客様に驚きや感動を与える、先進的かつ付加価値の高い製品を継続的に市場に投入し、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2005年5月

代表取締役会長

草間 三郎

代表取締役社長

花岡 清二

## 特 集

インクジェットプリンタが芸術分野でも新たな可能性を拓く

# エプソンのプリンタがプロの写真家や芸術家から高い評価を受けていることをご存じでしょうか？

エプソンのインクジェットプリンタが、芸術分野においても広く利用されていることをご存じでしょうか。今回はプロの写真家、画家、美術館から高い評価を受け、さまざまな場面で使用されているエプソンのインクジェットプリンタの活躍をご紹介します。



カラーイメージングコンテスト2004  
グランプリ 永津広空「サクラチル公園」より

カラーイメージングコンテスト2004  
優秀賞 写真部門 井上高志「The Bit Scream」より



カラーイメージングコンテスト2004  
準グランプリ  
福森崇広  
「アニメーション背景の街」より

## 高い表現力で芸術分野でも活躍する エプソンのプリンタ

写真家や画家などプロユーザーの要望にお応えするプリンタには、作品としての深み、流体の立体感や輝きを思い通りの色に印刷する高い表現力が必要です。エプソンのインクジェットプリンタは独自のプリントヘッドやインク技術によってこれを実現しているのです。

エプソンのプリントヘッドは、他社が採用する加熱方式のプリントヘッドと異なり、電圧を加えると変形するピエゾ素子の圧力でインクを押し出す仕組みです。ピエゾ素子にかかる電圧を精密かつ最適に制御することでさまざまな大きさのインクの粒を吐出できるため、安定して色の出力ができることが強みです。

また、従来の4色の印刷技術よりも多い6～8色のインクの超微小インクドットにより画像を再現しているため、オフセット印刷やリトグラフなどでは再現しにくかった中間色の色彩、筆のタッチ、画材の質感などがそのままの色鮮やかさで驚くほど忠実に再現できます。これらの特長が認められ、原画の複製や、グラフィックアート作品の作成に多く使用されているのです。



### ■ カラリオ「PX-G5000」

「PX-G5000」は、美しさと保存性を高いレベルで両立させたA3ノビ光沢顔料プリンタです。新開発のレッド、ブルーインクを加えた合計8色のインクを搭載。赤や青などの色再現性が大きく広がったことで印刷の表現力が一層深まりました。さらに、耐オン性30年、耐光性80年を実現。長期間にわたる作品展やコンテストへの応募時にも鮮やかな発色を保ち続けます。

### ■ カラーイメージングコンテスト

エプソンは、より多くの人々が自由な創造の喜びにふれる機会を提案するため、デジタル出力された写真やグラフィック作品を対象としたコンテスト「エプソン カラーイメージング コンテスト」を開催しています。1994年にスタートしたこのコンテストは毎年応募総点数を伸ばし、11回目の2004年は105,033点（前年比約2.3倍）という過去最高の応募点数を集め、国内最大のデジタルプリントコンテストとなりました。



## デジタル技術で芸術作品の新たな可能性を拓く

エプソンのインクジェットプリンタでは、熱によるインクの劣化を考慮しなければならない他社加熱方式のプリントヘッドに比べ、染料、顔料問わず用途に応じた幅広いインクを選択が可能です。また、インクを吐出するプリントヘッドが印刷用紙に接触しない構造のため、写真用紙だけでなくマット紙やこれまでの印刷技術では不可能とされていた和紙への印刷も可能にし、表現の可能性を広げました。

これらの特長から、用紙の風合い（タッチ）まで活かした印刷物が作成可能となり、「ピエゾグラフ」という新たな表現技法が生まれました。ピエゾグラフとは、エプソンのインクジェットプリンタの持つ高精細かつ豊かな色彩表現力を活かして、筆のタッチや画材の質感をデジタルプリントでリアルに表現する新しいデジタル印刷技法です。最近では、さまざまなグラフィックアート作品の創作に貢献し、新たな芸術価値を生み出すための表現技法として発展しています。



安曇野ちひろ美術館  
いわさきちひろピエゾグラフ作品のアーカイブ化の成果として常設展示されています。

## フォト文化の創造を目指して

エプソンは、1998年4月より東京・新宿でイメージギャラリー「epSITE」(エプサイト)を運営しています。

epSITEは、プロアマ問わず厳しい目と高い要求を持った作家の作品を専門に扱い、インクジェットプリンタの持つ高精細かつ豊かな表現力がこれら作家をも満足させるクオリティであることを、広く一般のお客様に知っていただき、さまざまなフォトの可能性を体感していただく場です。こうしたなかで、作家や来場されたお客様から直接伺った要望や提案などを、製品づくりや次世代製品の開発に反映させる重要な役割を担ってきました。

エプソンは、独自の技術とこれらお客様との積極的なコミュニケーション活動により、インクジェットプリンタの新たな可能性を切り拓き、芸術分野での社会貢献や未来のフォト文化の創造を目指します。



開館時間：10:30～18:00  
休館日：なし(夏季・年末年始を除く)  
入場料：無料



所在地：東京都新宿区西新宿2-1-1  
新宿三井ビル1階  
アクセス：東京メトロ丸の内線「西新宿駅」より徒歩4分  
都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」より徒歩2分  
小田急線・京王線・JR線「新宿駅」より徒歩5分

### ■ 商品化の例

**MAXART K3**

「PX-5500/PX-6500/PX-7500/PX-9500」  
マックスアート K3シリーズは、モノクロ写真を美しく印刷したいとお客様の声から生まれた、美しさと保存性を高いレベルで両立させた顔料プリンタです。ワイド1インチヘッドと、ブラック、グレー、ライトグレーの3種類のモノクロインクとカラーインクを搭載し、広い色再現領域を保ちつつモノクロ写真の画質を大幅に向上。光沢紙から画用紙のようなファインアートペーパーまでプロの作品づくりの幅を広げる豊富な用紙のラインナップにより、印刷の表現の幅が一層広がりました。さらにモノクロ写真において最高200年の耐光性を実現。長期間にわたる作品展や、作品として販売後も色褪せしない美しい画質を保ち続けます。



PX-5500



PX-6500



PX-7500



PX-9500

## 事業別セグメントの概況

エプソンの事業は、主に、情報関連機器事業、電子デバイス事業、精密機器事業の3セグメントで構成されています。

ここでは、各セグメントの主要事業(主要商品)の戦略についてご説明いたします。

なお、最近4年間の事業別セグメントの売上高、営業利益の構成は以下のとおりです。

### 事業別セグメント売上高構成

(単位：億円)

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
連結売上高	12,741	13,224	14,132	14,797
情報関連機器事業	9,022	9,158	9,203	9,460
電子デバイス事業	3,120	3,542	4,411	4,826
精密機器事業	781	797	811	811
その他の事業	258	263	294	345
消去または全社	△ 442	△ 537	△ 588	△ 645

(注) 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(以下、同じ)。

(単位：億円)

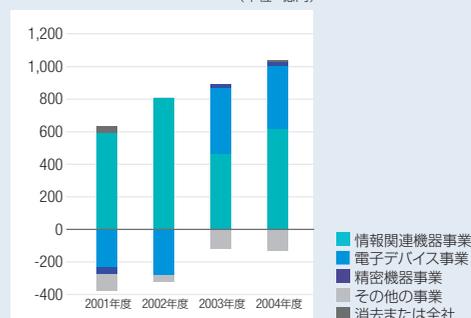


### 事業別セグメント営業利益構成

(単位：億円)

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
連結営業利益	261	493	774	909
情報関連機器事業	588	804	459	615
電子デバイス事業	△ 223	△ 280	406	385
精密機器事業	△ 41	6	28	24
その他の事業	△ 105	△ 37	△ 120	△ 130
消去または全社	44	0	0	14

(単位：億円)



## 1. 情報関連機器事業セグメント

当セグメントに含まれる事業は、情報画像事業（インクジェットプリンタ、レーザープリンタ、ドットマトリクスプリンタ、ミニプリンタ、POSシステム関連製品など）、映像機器事業（液晶プロジェクター、大型液晶プロジェクションTVなど）およびPC・その他事業です。

上記事業のうち、主要製品であるインクジェットプリンタおよび大型液晶プロジェクションTVについてご説明します。

インクジェットプリンタにおきましては、「EPSON=Photo」戦略のもと、写真印刷ボリュームの拡大を目指した販売戦略に注力いたしました。

プリンタ・スキャナ・コピーの機能をあわせ持つマルチファンクションプリンタ（複合機）のラインナップを強化するとともに、デジタルスチルカメラなどで撮影した画像をパソコンを介さずに印刷でき、持ち運びも可能なコンパクトフォトプリンタ「カラリオ ミー」（海外では「PictureMate」）など、多様化するユーザーのニーズに応える製品を発売し、ユーザー層の拡大に取り組みました。これにより、国

内では2004年度（2004年4月～2005年3月）で、インクジェットプリンタ市場のシェアトップ\*を維持し、海外でも順調にシェアを伸ばしました。

また、製造コストや販売費及び一般管理費などを見直し、利益体質の強化にも取り組みました。

2005年度は、プロ・ハイアマチュアをターゲットにしたハイエンドモデルの販売数拡大を進め、引き続きユーザー層の拡大に取り組むとともに、コストの削減によるさらなる利益体質の強化を目指します。

大型液晶プロジェクションTV「LIVINGSTATION」におきましては、高精細で美しい映像、価格優位性および低消費電力などの機能面を訴求することにより、市場の認知度拡大に取り組みました。

2005年度も引き続き、積極的な広告宣伝活動を展開し、大画面テレビ市場でのシェア拡大とブランドの確立を目指します。

※ 一般消費者向けの国内販売台数。各種調査データをもとにエプソン推定

### 情報関連機器事業



マルチファンクションプリンタ  
カラリオ「PM-A900」



コンパクトフォトプリンタ  
カラリオ ミー「E-200」



ホームプロジェクター  
ドリーミオ「EMP-TW200H」



大型液晶プロジェクションTV  
LIVINGSTATION「ELS-57P2G」

## 2. 電子デバイス事業セグメント

当セグメントに含まれる事業は、ディスプレイ事業(中・小型液晶ディスプレイ、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルなど)、半導体事業(LCDDライバ、システムLSIなど)および水晶デバイス事業(水晶振動子、水晶発振器など)です。

このうち、ディスプレイ事業および水晶デバイス事業の戦略についてご紹介します。

ディスプレイ事業におきましては、2004年10月1日より、当社と三洋電機グループの液晶ディスプレイ事業の統合による合併会社である、三洋エプソンイメージングデバイス株式会社が営業を開始いたしました。三洋エプソンイメージングデバイス株式会社は、携帯電話、デジタルスチルカメラおよび車載向けをメインターゲットとする中・小型液晶ディスプレイに戦略をフォーカスしています。小型化・

高画質化・高精細化・量産化が可能な高い技術力、顧客毎のカスタム対応が可能な商品力および徹底的なコスト削減による価格競争力により、中・小型液晶ディスプレイ分野でのナンバーワンを目指します。

また、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルについては、ビジネス向けプレゼンテーション機会の増大、教育用市場での活用の拡大にともない、データプロジェクター用での需要が順調に拡大しています。また、DVDプレーヤーの利用増加、デジタル放送の普及にともない、ホームプロジェクターおよび大型液晶プロジェクションTV用での需要も、急速に拡大しています。

このような需要の拡大に応じた生産体制増強のため、北海道千歳市の工業団地「千歳美々ワールド」に竣工した新工場で、2005年4月より量産、出荷を開始いたしました。今後も市場動向にあわせて順次生産能力を増強してまいります。

### 電子デバイス事業



車載向け6.5型  
アモルファスシリコンTFT LCDモジュール



高温ポリシリコンTFT液晶パネル



有機ELコントロールLSI



水晶発振器

水晶デバイス事業におきましては、2005年3月に、東洋通信機株式会社との間で、2005年10月1日を目処に両社の水晶事業を統合することを内容とする「事業統合契約書」を締結いたしました。水晶デバイスは、無線通信機器、パソコンの時計表示など、デジタル情報機器のキーデバイスとして重要な位置を占めています。事業統合によってお互いの得意分野である量産・微細加工技術および高品質生産技術をより強化し、水晶デバイス業界におけるリーディングカンパニーを目指します。（詳しくは、12ページ「経営トピックス」をご確認ください）

### 3. 精密機器事業セグメント

当セグメントに含まれる事業は、ウオッチ事業（ウオッチ、ウオッチムーブメントなど）、光学事業（プラスチック眼鏡レンズ、光学デバイスなど）、FA機器事業（多関節型ロボット、ICハンドラなど）です。

精密機器事業で培われたエプソン独自の高効率・微細・精密加工技術は、エプソンが手がける多くの製品の中核技術となっております。今後も当セグメント内の製品の販売数拡大を進めることは勿論のこと、これに加え、他セグメントの事業とのシナジー効果を意識した製品・技術開発を推進してまいります。

#### 精密機器事業



ウオッチ  
グランドセイコー「SBGA003」  
スプリングドライブ自動巻きモデル



プラスチック眼鏡レンズ



垂直多関節型6軸ロボット

## 経営トピックス

### 東洋通信機株式会社との水晶事業統合に向けた資本提携をとまう業務提携

当社は、東洋通信機株式会社（以下「東洋通信機」という）との間で、2005年10月1日を目処に両社の水晶事業を統合することを決定しました。また、当社は、今後予定されている事業統合に向けた両社の関係強化のために、東洋通信機が発行する総額54億円の転換社債型新株予約権付社債のうち27億円の引受けを行いました。

水晶デバイスはデジタル情報機器のキーデバイスとして重要な位置を占め、ここ数年で携帯電話などの用途で世界的に市場が拡大、需要も堅調な伸びを示してきました。

しかしながら、市場拡大にともなって需要変動の振幅が拡大したこと、熾烈な価格競争が起こるようになったことなど市場環境も大きく変わりました。また、小型化・高性能化、量産化などのニーズが高まるなかで研究開発や設備への投資がこれまでも増して重要となっており、研究開発のスピード化やより効率的な生産体制の構築の必要性が高まっています。

このような環境のもと、当社と東洋通信機は、事業統合によって両社の得意分野をより強化するとともにシナジー効果を高めることで、水晶デバイス業界におけるリーディングカンパニーを目指します。

### エプソン、富士通ゼネラル、日立、松下、三洋、ソニーが3LCD方式プロジェクション製品の市場啓蒙活動を目的にグループを結成

エプソンは、株式会社富士通ゼネラル、株式会社日立製作所、松下電器産業株式会社、三洋電機株式会社およびソニー株式会社の5社と共同で、液晶プロジェ



クター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルを3枚使用する3板方式（以下、「3LCD方式」という）の特性や利点を一般のお客様や専門家に知っていただく活動を行う目的から、「3LCDグループ」を結成しました。

今回結成された3LCDグループの使命は、プロモーション活動、製品デモ、最新業界ニュースなどを通じて、3LCD方式の利点を広くお客様や専門家に伝えていくことです。さらに市場に出ている他の方式とは違った、3LCD方式の特性を伝えていきます。

プロジェクター、大型液晶プロジェクションTVなど、3LCD方式のプロジェクション製品は、これまでに900万台\*近くが販売され、その販売数は伸び続けています。今後も3LCD方式の技術の向上に努めるとともに、市場での販売数拡大を目指します。

\* パシフィック・メディア・アソシエイツ社のウィリアム・コックショール博士による。

## 東京・青山にデジタルイメージング機器が体感できる直営店「VISION」 in Aoyamaをオープン

エプソンは、東京・青山の表参道に、直営店「VISION」(ビジョン) in Aoyamaをオープンしました。

「VISION」のコンセプトは、「あなたの生活に、もっとイメージング(写真や映像)を。豊かなコミュニケーションを体感できる空間を」です。インクジェットプリンタや大型液晶プロジェクションTVなどの最新商品を見て触ることのできる商品展示を行うほか、お客様が実際に使用する環境に近い状態で体感いただく工夫をしています。商品の購入をご希望されるお客様は、その場でのお申し込みも可能です。

また、流行の最先端である青山・表参道に直営店を構えることで、エプソンブランドのイメージを高める情報発信基地の役割も担っています。

今後も、エプソンは「VISION」を通して、お客様とエプソンとのコミュニケーションの強化およびエプソンブランドのイメージアップを目指します。



営業時間：11:00～20:00



所在地：東京都港区北青山3-11-7  
アクセス：東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線  
「表参道駅」B2出口より徒歩1分

## 世界初のクォーツ腕時計「セイコークォーツアストロン」が権威あるIEEEのマイルストーン賞を受賞

エプソンが、セイコー株式会社とともに世界に先駆けて開発・販売したクォーツ腕時計「セイコークォーツアストロン」(1969年)が、IEEE(アメリカ電気・電子通信学会)の「マイルストーン賞」に認定されました。認定の理由は、当該製品の商品化がその後のクォーツ時計の普及と発展に拍車をかけ、誰もがいつでも正確な時刻を知ることのできる時代を切り開いた、というものです。

マイルストーン賞とは、電気・電子技術およびその関連分野の歴史に著しい業績を残し、社会に大きく貢献した事象を顕彰する世界的な賞であり、1983年の創設以来全世界で50以上のマイルストーン賞が認定されており、国内ではセイコークォーツアストロンが4件目の受賞となります。



## 環境活動

### エプソン独自のインクジェット工業応用技術をさらに進展させ、回路基板製造の実現に目処付け

エプソンは、独自のインクジェット工業応用技術を応用して、世界初\*となる20層の積層回路基板の開発に成功しました。

一般的に、多層回路基板はフォトリソグラフィ技術でパターンニングした銅張板を積層させて作製しますが、薄型軽量・高密度で安価な多層回路基板を作製することは困難でした。

こうしたなか、エプソンは携帯性に優れた情報通信機器などに用いられる回路基板の高機能化、小型軽量化および回路基板製造に関するエネルギーの大幅削減を目的として、NEDO\*\*からの助成を受け2003年6月より3ヵ年計画で、インクジェット技術を用いた回路基板製造技術を開発するプロジェクトを進めてきました。この結果、数ナノ～数10ナノメートルの銀微粒子を液体中に分散させたインクと、新規開発の絶縁体インクとをインクジェットで交互にパターンニング・積層することにより、20層積層回路基板の試作に成功しました。

インクジェット技術を用いた製造プロセスは、従来のプロ



セスと比較して(1)必要な部分のみに描画するため材料使用量が少ない(2)ドライブプロセスのため廃液排出が少ない(3)工程数が少ないた

めエネルギー消費量が小さいなど、環境面においても優れています。

エプソンは2010年度までに生産プロセスにおける地球温暖化物質の排出総量を1997年度比で60%削減する高い目標を掲げていますが、インクジェット技術を応用した製造プロセスは、この目標実現のための中核技術となるものです。

※ エプソン調べ

※※ 独立行政法人・新エネルギー産業技術総合開発機構(The New Energy and Industrial Technology Development Organization)

### 業界初、デスクトップパソコン分野およびパソコン専用ディスプレイ分野でエコリーフ環境ラベルのシステム認定を取得

パソコンおよび周辺機器の製造・ダイレクト販売などを行うエプソンダイレクト株式会社が、2005年2月にデスクトップパソコン事業およびパソコン専用ディスプレイ事業において、社団法人産業環境管理協会が運営するエコリーフ環境ラベルの「製品環境データ集積システム」認定(以下、「システム認定」)を取得しました。この分野でのシステム認定取得は業界初となります。さらに当社も同時に、モノクロレーザープリンタ事業におけるシステム認定を取得しました。

これにより、セイコーエプソングループが取得したシステム認定は既に取得済みのインクジェットプリンタ、液晶プロジェクター、ノート型パソコンに加え、5分野となりました。

## 回収時にベルマーク運動のポイントが付与される、使用済みカートリッジの種類を拡大

当社およびエプソン販売株式会社は、使用済みカートリッジの回収において、財団法人ベルマーク教育助成財団が推進するベルマーク運動に2004年6月より参加しています。これまで、回収時にベルマーク運動のポイントが付与されるのはインクジェットプリンタ「カラリオ」の使用済みインクカートリッジのみでしたが、2005年3月より、レーザープリンタ「オフィリオ」の使用済みトナーカートリッジおよび大判インクジェットプリンタ「マックスアート」の使用済みインクカートリッジも対象となりました。

使用済みインクカートリッジの回収箱は、これまでに4,000を超える学校に設置いただいております。今後、ベルマーク運動を通じた使用済みカートリッジ回収の気運はますます高まるものと思われます。



## 自社環境ラベル「エプソンエコロジーラベル」制度をレベルアップ

2001年4月から本格導入していた自己宣言型環境ラベル「エプソンエコロジーラベル」制度を2004年11月に改訂しました。これは、商品に求められる環境仕様を従来以上にきめ細かく評価し、優れた環境性能を持つ商品が継続的に創出できる商品化プロセスを再構築したものです。

また、これに加え、「エプソンエコロジープロダクト」、「エプソンエコロジープロフィール」と呼ぶ2種類の環境情報を提供する制度に移行しました。「エプソンエコロジープロダクト」とは、業界トップレベルの環境性能を有する、または当社従来商品と比べ著しく環境性能が向上している商品を指し、その環境性能を具体的に公開するものです。「エプソンエコロジープロフィール」は、消費電力量や含有禁止化学物質の含有有無など、商品の環境仕様を明示するための情報開示シートです。

プリンタ、プロジェクターなどの完成品では、商品本体、梱包材、消耗品など、商品全体の環境仕様を明らかにするとともに、北欧の環境ラベル「IT Eco Declaration」との項目の整合も図りました。一方、電子デバイス商品では、商品への含有化学物質の定量情報を提供していきます。

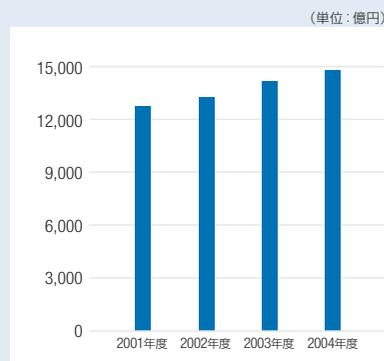
## 財務ハイライト

(単位：億円)

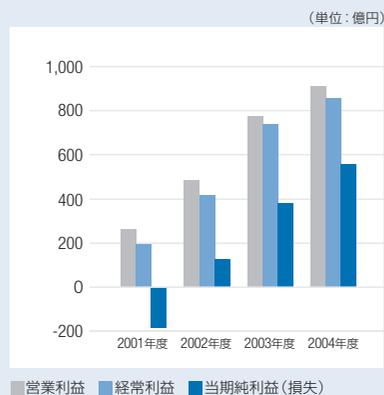
	2001年度 (2001年4月1日から 2002年3月31日まで)	2002年度 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)	2003年度 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	2004年度 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
売上高	12,741	13,224	14,132	14,797
営業利益	261	493	774	909
経常利益	192	417	736	853
当期純利益(△損失)	△184	125	380	556
総資産	12,416	11,976	12,070	12,982
株主資本	2,803	2,813	4,143	4,728
1株当たりデータ(円)：				
当期純利益(△損失)	△121.37	81.08	204.70	283.60
潜在株式調整後当期純利益	-	-	204.53	-
株主資本	1,846.05	1,851.13	2,110.20	2,408.13

(注) 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(以下、同じ)。

## 売上高



## 営業利益／経常利益／当期純利益(損失)



## 総資産／株主資本



## 連結決算の概要

### 連結貸借対照表の要旨

科目	2004年度 (2005年3月31日現在)	2003年度 (2004年3月31日現在)
<b>■ 資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>7,471</b>	<b>7,097</b>
現金及び預金	2,355	2,662
受取手形及び売掛金	2,561	2,103
たな卸資産	1,766	1,558
その他	823	809
貸倒引当金	△36	△37
<b>固定資産</b>	<b>5,510</b>	<b>4,973</b>
有形固定資産	4,413	3,930
建物及び構築物	4,197	3,761
機械装置及び運搬具	5,211	4,694
工具、器具及び備品	1,882	1,768
土地	588	521
その他	77	123
減価償却累計額	△7,543	△6,939
無形固定資産	265	231
投資その他の資産	831	811
投資有価証券	498	390
その他	340	427
貸倒引当金	△7	△7
<b>資産合計</b>	<b>12,982</b>	<b>12,070</b>

(単位：億円)

科目	2004年度 (2005年3月31日現在)	2003年度 (2004年3月31日現在)
<b>■ 負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>5,050</b>	<b>4,181</b>
支払手形及び買掛金	1,450	1,323
短期借入金	306	634
1年以内に返済予定の長期借入金	1,046	473
未払金	1,190	817
その他	1,056	932
<b>固定負債</b>	<b>2,936</b>	<b>3,720</b>
長期借入金	2,599	3,467
その他	337	252
<b>負債合計</b>	<b>7,986</b>	<b>7,901</b>
<b>■ 少数株主持分</b>		
少数株主持分	266	25
<b>■ 資本の部</b>		
資本金	532	532
資本剰余金	795	795
利益剰余金	3,509	2,995
その他有価証券評価差額金	37	30
為替換算調整勘定	△145	△209
自己株式	△0	△0
<b>資本合計</b>	<b>4,728</b>	<b>4,143</b>
負債、少数株主持分及び資本合計	<b>12,982</b>	<b>12,070</b>

### ■ 貸借対照表のポイント

#### 総資産

主に三洋エプソンイメージングデバイス株式会社の営業開始にともない、2003年度に比べ911億円の増加となっています。

#### 株主資本

主に利益の増加により、2003年度に比べ585億円の増加となっています。

## 連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

科目	2004年度 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	2003年度 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
売上高	14,797	14,132
営業利益	909	774
経常利益	853	736
税金等調整前当期純利益	736	650
当期純利益	556	380

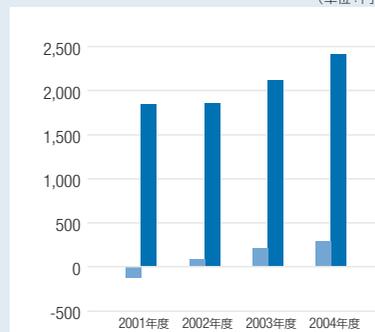
## 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

科目	2004年度 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	2003年度 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,624	1,826
投資活動によるキャッシュ・フロー	△993	△653
財務活動によるキャッシュ・フロー	△963	△409
現金及び現金同等物に係る換算差額	30	△35
現金及び現金同等物の増(減)額	△302	728
現金及び現金同等物の期首残高	2,651	1,922
現金及び現金同等物の期末残高	2,349	2,651

1株当たり当期純利益(損失)／  
1株当たり株主資本

(単位：円)



■ 1株当たり当期純利益(損失) ■ 1株当たり株主資本

## 主な経営指標

(単位：%)

■ ROA: 経常利益／総資産 ■ ROS: 経常利益／売上高  
■ ROE: 当期純利益(損失)／株主資本

## 単体決算の概要

### 貸借対照表の要旨

科 目	2004年度 (2005年3月31日現在)	2003年度 (2004年3月31日現在)
<b>■ 資産の部</b>		
<b>流 動 資 産</b>	<b>4,052</b>	<b>5,259</b>
現金及び預金	1,367	1,881
受取手形及び売掛金	1,457	1,753
たな卸資産	571	662
その他の	655	962
貸倒引当金	△0	△0
<b>固 定 資 産</b>	<b>5,318</b>	<b>5,313</b>
有形固定資産	2,930	3,263
建 物	1,233	1,359
機 械 及 び 装 置	883	994
土 地	499	515
そ の 他	312	393
無形固定資産	135	156
投資その他の資産	2,253	1,893
投資有価証券	375	275
関係会社株式	1,593	1,193
そ の 他	284	425
貸倒引当金	△0	△0
<b>資 産 合 計</b>	<b>9,370</b>	<b>10,573</b>

(単位：億円)

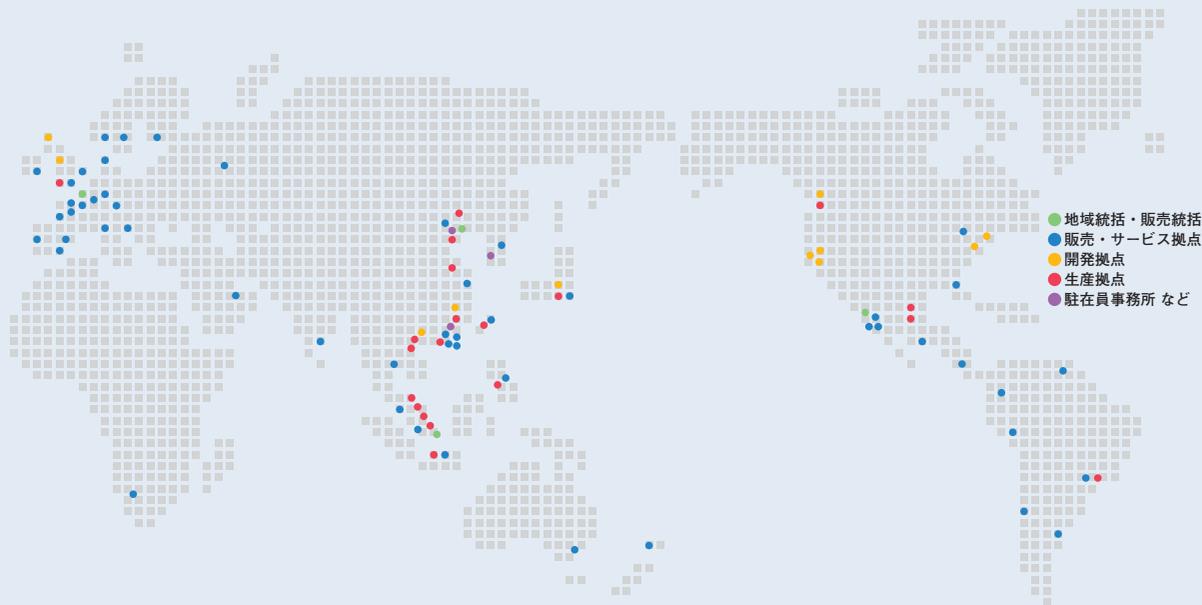
科 目	2004年度 (2005年3月31日現在)	2003年度 (2004年3月31日現在)
<b>■ 負債の部</b>		
<b>流 動 負 債</b>	<b>3,238</b>	<b>3,468</b>
支払手形及び買掛金	1,088	1,624
短期借入金	120	400
1年以内に返済予定の長期借入金	823	445
未 払 金	736	647
そ の 他	470	351
<b>固 定 負 債</b>	<b>2,336</b>	<b>3,541</b>
長期借入金	2,232	3,438
そ の 他	104	103
<b>負 債 合 計</b>	<b>5,574</b>	<b>7,010</b>
<b>■ 資本の部</b>		
<b>資 本 金</b>	<b>532</b>	<b>532</b>
資本剰余金	795	795
利益剰余金	2,432	2,205
その他有価証券評価差額金	36	29
自 己 株 式	△0	△0
<b>資 本 合 計</b>	<b>3,795</b>	<b>3,562</b>
<b>負 債 資 本 合 計</b>	<b>9,370</b>	<b>10,573</b>

### 損益計算書の要旨

(単位：億円)

科 目	2004年度 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	2003年度 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
<b>売 上 高</b>	<b>9,958</b>	<b>10,773</b>
<b>営 業 利 益</b>	<b>418</b>	<b>297</b>
<b>経 常 利 益</b>	<b>398</b>	<b>315</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>368</b>	<b>234</b>
<b>当 期 純 利 益</b>	<b>270</b>	<b>161</b>

## グローバル事業展開



## ■ 本社および主な事業所

本社	本店
広丘事業所	富士見事業所
諏訪南事業所	塩尻事業所
松本南事業所	伊那事業所
村井事業所	島内事業所
日野事業所	松島事業所
酒田事業所	松本事業所
高木事業所	神林事業所
千歳事業所	

## ■ 国内関係会社 38社

エプソン販売株式会社  
東北エプソン株式会社  
エプソンダイレクト株式会社  
三洋エプソンイメージングデバイス株式会社  
オリエント時計株式会社  
他 33社

## ■ 海外関係会社 77社

## 統括会社

U.S. Epson, Inc. (地域統括)  
Epson Europe B.V. (地域統括)  
Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)  
Epson Singapore Pte. Ltd. (販売統括)

## 販売拠点

Epson America, Inc.  
Epson Electronics America, Inc.  
Epson (U.K.) Ltd.  
Epson Deutschland GmbH  
Epson Europe Electronics GmbH  
Epson France S.A.  
Epson Italia s.p.a.  
Epson Iberica, S.A.  
Epson Korea Co., Ltd.  
Epson (Shanghai) Information Equipment Co., Ltd.

Epson Hong Kong Ltd.  
Epson Taiwan Technology & Trading Ltd.  
Epson Australia Pty. Ltd.

## 生産・開発拠点

Epson Portland Inc.  
Epson El Paso, Inc.  
Epson Research and Development, Inc.  
Epson Telford Ltd.  
Suzhou Epson Co., Ltd.  
Epson Precision (Hong Kong) Ltd.  
Singapore Epson Industrial Pte. Ltd.  
P.T. Indonesia Epson Industry  
Epson Precision (Philippines), Inc.  
Epson Precision (Malaysia) Sdn. Bhd.

他 50社

(2005年3月31日現在)

## 会社情報

- **本社** 〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号  
TEL : 0266-52-3131 (代表)
- **本店** 〒163-0811 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号  
新宿NSビル  
TEL : 03-3348-8531 (代表)
- **資本金** 532億4百万円
- **創立** 1942年5月18日
- **従業員数** (2005年3月31日現在)  
連 結 : 85,647人  
単 体 : 11,811人
- **グループ会社数** (2005年3月31日現在)  
116社  
国 内 : 39社 (当社を含む)  
海 外 : 77社
- **主要事業**
  - 情報関連機器事業 (各種プリンタおよびそれらの消耗品、カラーイメージスキャナ、液晶プロジェクター、大型液晶プロジェクションTV、液晶モニター、ラベルライター、ミニプリンタ、POSシステム関連製品、PCなど)
  - 電子デバイス事業 (中・小型液晶ディスプレイ、液晶プロジェクター用高温ポリシリコン/TFT液晶/パネル、CMOS LSI、水晶振動子、水晶発振器など)
  - 精密機器事業 (ウオッチ、ウオッチムーブメント、プラスチック眼鏡レンズ、光学デバイス、水平多関節型ロボット、ICハンドラなど)
  - その他の事業 (グループ内サービス業、胎内育成事業など)
- **ホームページアドレス** <http://www.epson.co.jp/>

### ■ 役員一覧 (2005年4月1日現在)

取締役会長 (代表取締役) 草間 三郎	取締役 橋爪 伸夫
取締役副会長 服部 靖夫	上脇 修
取締役社長 (代表取締役) 花岡 清二	平野 精一
取締役副社長 (代表取締役) 木村 登志男	碓井 稔
(代表取締役) 丹羽 憲夫	内田 健治
	濱 典幸
専務取締役 両角 正幸	取締役相談役 安川 英昭
常務取締役 大月 康正	常勤監査役 大前 昌義
赤羽 正雄	木代 俊彦
矢島 虎雄	監 査 役 山本 恵朗
久保田 健二	秋山 富一
加々美 健雄	石川 達紘
小松 宏	

## 株式情報

### ■ 株式の状況 (2005年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	607,458,368株
発行済株式の総数	196,364,592株
株主の総数	33,108人

### ■ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
青山企業株式会社	20,318	10.34
三光起業株式会社	14,288	7.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,458	4.30
株式会社みずほコーポレート銀行	7,593	3.86
服部 靖夫	7,144	3.63
服部 禮次郎	7,060	3.59
ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー	6,831	3.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,654	3.38
第一生命保険相互会社	6,240	3.17
セイコー株式会社	6,145	3.12

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てています。  
2. 所有比率は小数点以下第3位を切り捨てています。

### ■ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 0120-288-324(フリーダイヤル) <a href="http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/">http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/</a>
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

# セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和 3-3-5

Tel: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.co.jp/>

